

へき地・複式通信

課題部会研究協議会終わる

今年度の大きな取り組みの一つ、へき地・複式教育部会研究協議会が、9月5日（火）江別市立北光小学校を会場に開催しました。



今年度は、南北合同開催の年ということで、参加者78名の会員を迎え、熱心に研究協議をしていただきました。ありがとうございます。

分科会の前には、北海道立教育研究所研究研修主事の飯島裕也様による講演会もあり、「へき地・複式教育を進めるにあたって」と題して講演をしていただきました。複式学級における指導の基本や主体的に・対話的で深い学びの実現に向けて間接指導の充実などについて詳しく講演していただきました。

分科会では、8分科会に分かれ、討議の柱を中心に議論を進め、日常の実践やへき地・複式校における課題や展望などについても、交流を深めることができました。各会員は、同じ課題を共有することができ、明日からの実践に生かせる情報を得て、会場を後にしました。

今回の通信は、各分科会の話し合いの概要についてお伝えします。今後の日常の取り組み、実践に向けての参考にいただければと思います。

文責：江別市立角山小学校 山下真紀子

【開催期日】 平成29年9月5日（火） 【会場】 江別市立北光小学校
【参加者数】 78名

各分科会の話し合いの概要

A分科会（司会 渡辺智美 記録 田邊朝香）

○大きなケガに備えて

- ・救急車が来るのにかかる時間を確認している。
- ・危機管理マニュアルで確認している。大きなケガは119番通報。

○校内での研修について

- ・学校保健の研修を年度初めに確認している。（出停、嘔吐、危機管理マニュアル等）
- ・アナフィラキシーの研修経験あり。
- ・消防署の方が来て実習を実施。
- ・校内研修は、勉強のため参加している。大きなところでは入らず本務だけになる。

○熱中症への備え

- ・経口保水液や塩飴を冷蔵庫に入れている。



B分科会（司会 富永有斗理 記録 丸毛大介）

○学校配分予算の執行、保護者負担軽減の取り組み

- ・各市町村の補助金を見直すことにより、保護者負担軽減につながるのではないか。
- ・教材費購入で支出されているものを見直し、学校配分予算で購入できるものを検討する。
- ・小規模校における印刷費の状況。

○ICT機器を含めたデジタル教科書の導入、使用状況について

- ・デジタル教科書は複式授業において使用している割合が高い。
- ・教科書が新しくなるのにあわせて、デジタル教科書も新しく購入する必要あり。
- ・ICT機器は年数が経つと経年劣化や性能に不満がでてくる。

○旅費について

- ・小規模校では、貸し切りバスのみで移動ということにはならず、難しいケースも少なくない。
- ・へき地校では旅費が足りないケースがある

C分科会（司会 杉森卓也 記録 佐藤倫子）

○地域環境を生かした教育活動

- ・地域の皆さんがとても協力的。（運動会、畑、田んぼ等）
- ・少年団など教育課程以外の兼務が多い。地域の期待を考えながらスリム化を考える。地域とのかかわりが少ない旅行的行事等。

○業務のスリム化

- ・教材園の負担を減らす、花壇や田んぼの縮小。← P T A 総会で話し合い保護者にも納得してもらう。
- ・地域行事も大切だが、学業について情報発信をして関心を高め、改善を目指す。
- ・小中が協力して負担を減らす。理科・社会・家庭の複式は、中学校の先生に協力してもらう。

D分科会（司会 佐藤昌二 記録 百合野朋子）

○地域に根差した教育

- ・地域に根差した活動はできているが、マンネリ化しているのが実態。
- ・地域の中でともに子どもを育むコミュニティスクール。
- ・地域の活動はマンネリ化しているが、良さもある。これまで学校主体だったが、現在は保存会が主体。

○道徳の時間

- ・授業の進め方や評価。
- ・子どもに考えさせる発問の工夫。

○キャリア教育

- ・子ども自身が小さいころから考えていく必要がある。
- ・各教科で意識させることが大切。



E分科会（司会 小森政英 記録 本郷宏明）

○幼稚園・保育所、小・中学校、特別支援学校との連携

- ・幼保との連携を進めている。小学校入学後も連携を保つ。
- ・地区から高校がなくなり、中卒で地元を離れるので指導は9年間を見通すことが必要。
- ・出前授業や小学校の先生が中学校に行って授業することも。
- ・中学校がやがて複式になるので、中学校の先生が複式について小学校から学んでいる。
- ・特別支援学校へは困ったときに相談をして、それがきっかけとなって連携が取れるようになった。

F分科会（司会 村山直規 記録 関根いそ恵）

○基礎基本の着実な定着

- ・複式だと人手が必要。
- ・実態に応じて管理職が片方の学年を教えることもある。（教科による）
- ・理科専科がいるので大変助かる。
- ・九九の暗唱や音読は、全ての職員に協力をお願いする。
- ・電子黒板を活用する。
- ・全校朝の会で、一人一人がスピーチ。

○特別支援を必要とする児童への指導や配慮

- ・遅くてもじっくり取り組んでよい、という声掛け。
- ・支援員や支援センター、特別支援コーディネーターとの連携。
- ・交流学級の児童との関係に気を使っている。
- ・文字を目で見るとより、読み聞かせてあげることが有効な場合もある。

G分科会（司会 阿部陽子 記録 加藤亞弓）

○ICT活用と言語活動を重視した指導。

- ・全学級に電子黒板があり、視覚に訴えることができる（複数校）。
- ・準備に時間がかかる、動かなくなった時のリスクがある。
- ・PCを上手く使えば、間接指導の時にかなり有効である。
- ・国語のデジタル教科書の使い方。
- ・発表している姿を映像で見せ、自分の発表を振り返る（言語活動に活用）。
- ・自主学習や映像を見せるのに効果的。視覚に訴えられるのもよい。
- ・複式学級で1台しかないのは使いにくい、うまく使えず、宝の持ち腐れになることも。

○わたり、ずらしの効果的な展開

- ・理科と社会がつらい。片方の学年に教頭が入り、単学級指導になるようにしている。
- ・似た単元を同時期に学習するようにして、外に行く時間をそろえたり、片方の学年に動画を見せたりしている。
- ・理科専科の先生がおり、同じ時間に理科と社会の授業を組み担任と分担して進めている。
- ・教科をずらし、片方の学年を間接指導多めでも進められるようにしている。（テストや習熟の時間と実験の時間を抱き合わせる）
- ・空いている先生や学級の先生が入り、単学級指導になるようにする。

○家庭学習の取り組み

- ・計画を立てさせることで見通しをもち、取り組み内容が向上。
- ・よい家庭学習を紹介（廊下や通信等）し、他の子どもの意欲が向上したり参考にさせたりする。
- ・取り組み内容のばらつきや定着度に課題がある。

H分科会（司会 半澤一彦 記録 大槻力也）

○地域素材の教材化

- ・農耕体験学習。地域の方を読んだ餅つきの実施。

○支援が必要な児童への対応

- ・低学年からの積み上げが大切。
- ・間接指導時の対応。
（褒める、時によっては関わらないなど）
- ・実態に応じて授業の形を考える。
- ・ICT機器の整備。

○対話や話し合いのさせ方

- ・授業の見通しを持たせる段階で、教科書を活用しながら話をする。

（色々な考え方を出させるため）



《アンケートから》

課題部会のアンケートの中で、「課題部会を選ぶ際、複式学級のある学校は自動的にへき地・複式教育部会になるが、他の部会に行くことはできないのだろうか」との質問がありました。

管内のへき地・複式の小学校は、北海道へき地・複式教育研究連盟に加盟しています。石教研へき地・複式教育部会は同連盟の受け皿の役割を果たしている関係で、管内の複式学級のある学校に勤務する教職員は自動的に石教研へき地・複式教育部会に登録していただいております。他の部会に所属して研究したいという会員もいらっしゃると思いますが、上記の事情から、原則、へき地・複式教育部会の所属になることをご理解願います。

《最後に・・・》次年度の課題部会研究協議会は、授業公開の年となります。複式の授業を見るとてもいい機会です。新入会員研修会と合わせて、参加のほどよろしく願いいたします。

また、今回、会場を提供していただき準備等もお世話になりました、江別市立北光小学校の教職員のみなさま、本当にありがとうございました。